

2011-R004

2011年1月31日

アジア地域を高信頼でつなぐ「Asia Submarine-cable Express」の建設開始について

NTTコミュニケーションズ(略称:NTT Com)は、NTT Com Asia(本社:香港)とともに、アジア地域における国際トラフィックの急増および信頼性が高く遅延の少ないケーブルへの需要に応えるため、Telekom Malaysia(本社:マレーシア)、PLDT(本社:フィリピン)、StarHub(本社:シンガポール)とアジア地域をつなぐ新しい大容量光海底ケーブル「Asia Submarine-cable Express」(略:ASE)の建設を開始します。

ASEは、大容量を効率的に伝送できる最新の40G伝送技術を導入し、さらに、将来の100G伝送技術の適用を見据えた設計としています。フェーズ1として、日本、シンガポール、およびマレーシアを直接結び、フィリピンへ接続を持つルートの建設、その後、フェーズ2として香港に接続するルートを建設します。さらに今後は、各国主要通信事業者と共同で、中国大陸、東南アジア諸国への接続先の拡大を進めます。

これまでに地震や台風などを原因として頻発した、台湾南沖バシー海峡付近でのケーブル故障回避を考慮し、かつ、日本から香港、シンガポールなどへの最短遅延となるルート設計を行い、より信頼性の高い、低遅延の光海底ケーブルを建設します。

NTT Comは、本ケーブルを建設することにより、アジア域内の保有ケーブル容量をさらに強化するとともに、複数のケーブルルートを保有することで冗長性を確保し、さらに信頼性の高い国際ネットワークサービスを提供します。

アジア地域のインターネットトラフィック急増への対応とともに、経済発展するアジア地域への取り組み強化の一環として、NTT Comは東京・香港・シンガポールといった多国籍企業や金融機関が集積するアジアの経済ハブと、発展著しいアジア各国をつなぐケーブルを建設し、情報通信の高速化・大容量化に対応していきます。

名称: Asia Submarine-cable Express

建設総額: 約4.3億USドル (約360億円)

総延長: 約7,200km

容量: 15Tbps以上

陸揚げ予定地: 日本、フィリピン、シンガポール、マレーシア、香港

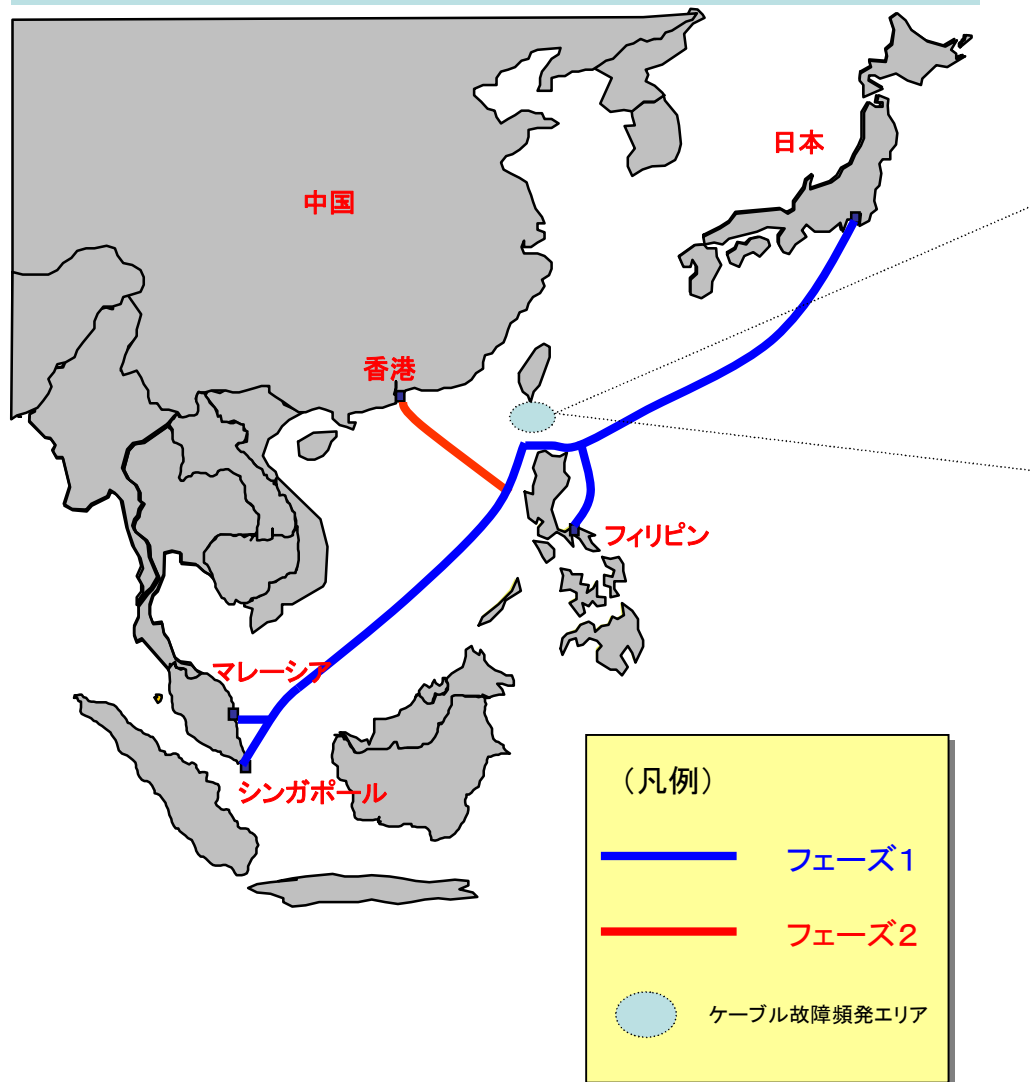
参加通信事業者: NTT Com、Telekom Malaysia、PLDT、StarHub

運用開始予定: フェーズ1 2012年6月、フェーズ2 2012年12月

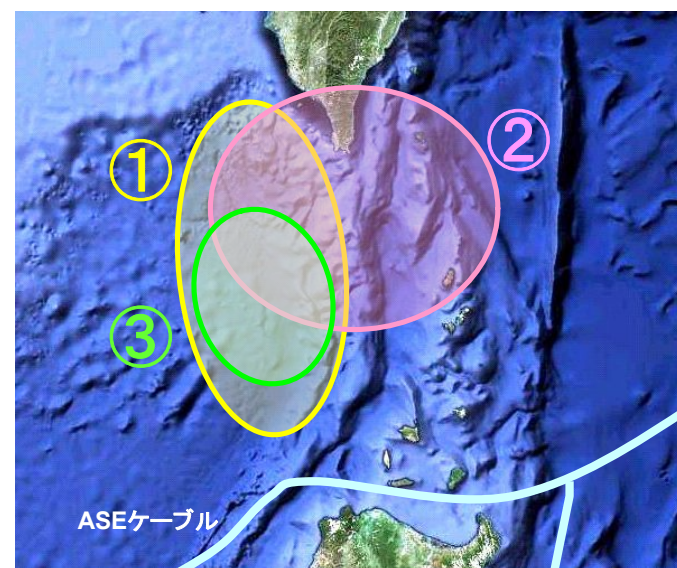
別紙: ケーブルルート(イメージ)図

別紙 ケーブルルート (イメージ) 図

Asia Submarine-cable Express (略称: ASE)



ケーブル故障頻発エリア
(台湾南沖バシー海峡付近)について:



このエリアは、国際海底ケーブルの密集地域ですが、地震や台風など自然災害の影響も受けやすく、ここ数年、故障が頻発しています。

このエリアが被災すると、香港・シンガポールをはじめ、東南アジア各国、ひいては日本・米国の通信に多大な影響を及ぼします。

ASEはこの故障頻発エリアを回避するようなルート設計となっています。

過去の故障事例:

- ①2006年12月:地震による故障
- ②2009年8月:台風による故障
- ③2010年3月:地震による故障